

(市長記者会見資料)

平成21年5月12日  
京 都 市  
〔産業観光局観光部観光企画課〕  
TEL 222-4130

## 入洛観光客数5000万人達成について

### ～ 目標年次である平成22年より2年早く達成 ～

京都市では、平成12年に「観光客5000万人構想」を宣言して以来、観光振興を都市経営上の最重要政策の一つに位置付け、京都ならではの観光資源の創出や発掘、きめ細やかな情報発信、国内外からの観光客の受入環境整備など、多彩な施策を展開してきました。

この度、平成20年の入洛観光客数を速報値としてとりまとめた結果、5,021万人を数え、目標年次である平成22年より2年早く、念願の「5000万人観光都市」を実現しましたので、お知らせします。

### 1 調査結果の概況

#### (1) 入洛観光客数は5,021万人に(8年連続過去最高)

平成20年の入洛観光客数は、下半期の世界的な金融危機や円高の影響があり、12月には対前年比が減少に転じましたが、京都の底力を発揮し、前年の4,944万5千人を76万5千人(1.5%)上回る5,021万人となり、8年連続で過去最高記録を更新しました。

#### (2) 外国人宿泊客数は、前年を上回る約94万人(5年間で倍増)

平成20年の外国人宿泊客数は、5年連続で過去最高記録を更新し、平成15年に約45万人であったものが、約94万人(前年比1万人(1.1%)増)と倍増しました。

国別では、韓国やアメリカからの宿泊客数が減少する一方、オーストラリアや欧州からの宿泊客数が大きく増加しました。

特に、ドイツは、43.6%増(2万8千人から4万1千人)、フランスは、26.8%増(4万3千人から5万5千人)となりました。

要因としては、第3次ジャポニズム、クールジャパンなどと言われるように、日本文化に対する関心が欧州で高まっていることから、日本文化の象徴である京都に大きな関心が寄せられているものと考えられます。

#### (3) 修学旅行生数は、昨年に引き続き増加し、100万人の大台を維持

修学旅行生数は、少子化や地域間競争が激化する中であって、積極的な誘致活動を展開した結果、前年と比べ5千人(0.5%)増加し、101万人となりました。

※ 速報値の詳細については、別紙を参照してください。

## 2 要因・背景の分析

オール京都の体制で取り組んだ「源氏物語千年紀事業」や「京都・花灯路」、多彩な観光施策の推進や、外国人観光客、修学旅行生を対象とした積極的な誘致活動を進めてきた取組が実を結んだものと考えられます。

### (1) 「京都・花灯路」の定着、「京の冬の旅」・「京の夏の旅」の好調

京都の新たな風物詩である「京都・花灯路」が定着したほか、オフシーズン対策として、社団法人京都市観光協会との共催により実施している「京の冬の旅」、  
「京の夏の旅」が好調。とりわけ、昨年は、「京の冬の旅」の非公開文化財特別公開の拝観者数が233千人から336千人へ増加（対前年比144%）したほか、源氏物語などをテーマとした定期観光バス特別コースの参加者数も14千人から17千人へ増加（対前年比120%）。「京の夏の旅」についても、前年を大幅に上回りました。

### (2) 外国人観光客の積極的な誘致

海外5箇所に設置している海外情報拠点を活用して、京都観光情報の発信と現地動向の把握による戦略的・効果的な誘致活動を推進。

また、国のビジット・ジャパン・キャンペーンとの積極的な連携のほか、インターネットを活用した京都への誘致キャンペーン「Kyoto Winter Special」を実施しました。

### (3) 修学旅行の誘致促進

全国学校訪問活動や、事前学習を支援する「京都・修学旅行アドバイザー事業」、修学旅行生用ホームページ「きょうと修学旅行ナビ」による最新情報の発信などにより、将来の京都ファン、リピーターを創出する修学旅行の誘致を促進しました。

### (4) 全国的な「京都ブーム」、欧米を中心とした「日本ブーム」

観光にゆとりや潤い、癒しなど、文化的・精神的な充足感が求められる中、山紫水明の自然、歴史ある寺院・神社をはじめ、町家、着物、京料理など、日本人の心のふるさと・京都ならではの魅力が国内外の観光客を魅了。

また、第3次ジャポニズム、クールジャパンなどと言われるように、日本文化に対する関心が欧米で高まっていることから、日本文化の象徴である京都に大きな関心が寄せられていると考えられます。

(参考)

